

第3学年 国語科学習指導案

指導者 小林 雅子

- 1 単元名 石塚小の様子を伝えよう
「かんさつしたことを書こう」(東京書籍 3年上)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、「校庭の様子を観察したことを整理して書き、他校の3年生に伝える」ことを単元を貫く言語活動として位置付けた。昨年度までお世話になり、4月に転勤した先生からの依頼を受けて、自分の学校のことを先生の新しい赴任先の児童に紹介するという活動は、児童にとって大好きな先生の役に立ちたいという思いから、単元を通して学習意欲を持続させることができると考えられる。また、観察する対象が、毎日元気に走り回っている校庭という身近な場所であることから、観察の際の視点(色・大きさなど)や文章を書くときに使用する方向や位置を表す言葉についても全ての児童にとってわかりやすく、取り組みやすいものと思われる。これらのことから、第3学年及び4学年「関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること」(B書くこと(1)ア)と「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」(B書くこと(1)イ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、国語では、答えがわかっていることについては答えられるが、自分の考えや気持ちを書いて伝えることは苦手とする児童が多い。その表れとして、国語の意識調査では、書くことが「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」と答えた児童が*名いた。嫌いな理由としては、「何をどう書いてよいかわからない」と書くことに抵抗を示す児童が見られた。書くことに関して個人差が大きく、書く話題を決めたり、書く内容を考えたりすることがうまくできない児童がいる。また、授業中、自分の考えをノートに進んで書いていいかという質問に対し、「どちらかといえばあてはまらない」、「あてはまらない」と答えた児童が*名であった。児童は文章を書く必要性を感じながらも、書くことに対して意欲的でない実態がある。

事前作文では、次のような結果が得られた。内容ごとに適切に改行している児童が*名、適切ではないが改行している児童が*名、1行ずつ改行している児童が*名、改行をしていない児童が*名である。また、句読点が抜けている児童がいる。作文の内容を分析すると、自分のしたことをした順番に書けてはいるものの、思いつくままに羅列して書いているものが多く、まとまりを意識した文章になっていない。書く内容をまとまりごとに整理するなど、段落を意識している児童はほとんどいないのが現状である。自己紹介文を書いたときには、材料メモを活用することで、作品を仕上げることができた。

国語についてのアンケート (第3学年*組 *名)

平成*年*月*日実施

○ 国語の学習で書くことは好きですか?

好き *名 どちらかといえば好き *名 どちらかといえばきらい *名 きらい *名

○ 授業中、自分の考えをノートに進んで書いていますか?

あてはまる *名 どちらかといえばあてはまる *名 どちらかといえばあてはまらない *名
あてはまらない *名

(2) 教材観

この教材では、観察して見つけたことを事柄ごとに整理して文章に書くことを学習する。ここでは、方位や位置を説明する言葉を使って情報を整理して書く活動を設定する。あえてわかりにくいモデルを提示することによって、実際に見ていない人にもわかってもらうためには事柄ごとに整理して表すことが大切であることを感じさせるようにする。長い文章を書くことにおもしろさを感じる児童が出てくるこの時期に、羅列ではなく、項目を整理して書くわかりやすさに気づかせられる教材である。

(3) 指導観

単元の導入では、昨年度までお世話になった先生からの手紙を紹介したり、その先生の新しい赴任先の児

童からのビデオレターを視聴させたりすることによって、相手意識と目的意識をもたせたい。また、校庭を観察するときにはメモ用紙を使用し、知らせたいものは何か、色・形・大きさ（比較するものを示す）などをはっきりメモに表せるようにする。さらに、方位や位置を表す言葉を的確に使うために、校庭の拡大図や写真を提示し、学級全体でも確認させていきたい。

書く活動では、児童間での交流の機会を設け、よりよい表現を認め合い、書く意欲を高め合えるようにしていきたい。さらに、本単元では、校庭にある複数の遊具や施設等の中から、伝えたい物を一つ選んで書くことから、複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関係付けたりしながら書くことにつながると考える。

4 単元の目標

- 自分の学校のことを伝えることに 관심をもち、観察したことを進んで書こうとする。（関心・意欲・態度）
- 観察して気付いたことを整理して、まとまりごとに段落を作って文章を書くことができる。（書くこと）
- 方向や位置を表す言葉に気をつけたり、句読点や改行・送り仮名などを適切に使ったりして文章を書くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・生活の中で観察記録をつけることに興味をもち、他校の3年生に自分たちの学校の様子を伝えるために意欲的に取り組もうとしている。	・観察して気付いたことをメモしたり、書く事柄をまとまりごとに整理し段落の役割を意識して文章に書いたりしている。	・方向や位置を表す言葉や、句読点・改行・送り仮名などを適切に用いて文章を書いていている。

6 単元の指導計画（5時間扱い） ○は本時

主な学習活動	主な評価
第1次 1 ビデオレターを視聴し、「石塚小の学校の様子を○小に知らせよう」という学習計画を立てる。	・事柄を整理して書いた文章のわかりやすさに気付き、文章を書くことに意欲をもって取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
第2次 1 学校の周りや校庭の様子を観察する。	・観察して気付いたことを整理しながらメモに書いている。 (書く能力)
第3次 ①， 2 観察したことを文章に書く。	・観察メモをもとに、わかりやすい事例を挙げたり、表現を工夫したりしながら、紹介文を書いている。 (書く能力) ・方向や位置を表す言葉を適切に使って書いている。 (言語についての知識・理解・技能)
第4次 1 書いた文章を読み合う。	・友達の書いた文章の内容や構成についてよいところを見つけてている。 (書く能力)

7 本時の学習

（1）目標

観察メモをもとに紹介文を書くを通して、相手や目的に応じて、わかりやすい事例を挙げ、表現を工夫して書くことができる。（書くこと）

（2）準備・資料

原稿用紙 学習計画表 短冊用紙 方向を説明するときに使う言葉の例 遊具の写真 校庭の拡大図 観察メモ モデル例 テレビ

（3）展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>○○小の3年生に石塚小の（　）の様子をつたえよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・○○小の3年生に石塚小のことを知つてもらうために、校庭を歩いて観察した学校の様子を文章にまとめることが知らせる。具体的な相手や目的をイメージすることで、書く意欲を高めるようにする。 ・掲示してある学習計画表で本時の学習の流れを確認し、学習の見通しをもてるようする。 ・課題の（　）内に自分が一番知らせたいものを書くよう指示する。
<p>2 校庭の様子を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコ、すべり台、総合遊具、 タイヤ、ロープウェー ・花壇、プランター、観察園 ・体育館、プールなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大図を用いて、遊具や校庭にあったものの場所を全員で確認する。 ・文章を書くときに、校庭にあるものの一つ一つの位置関係や校庭の様子全体を視覚的にとらえることができるよう、黒板に拡大図を掲示しておく。
<p>3 モデル文を見て、文の書き方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い例を提示し、伝わらないわけやわかりにくいところに気付かせ、その上で良い例を提示し、これから自分で書いていくときの参考にできるように指導する。 ・モデル文を提示することで、書くことに抵抗がある児童がそれを目安に書き出せるようにする。 ・観察したことを分かりやすく伝えるために方向や位置を説明する言葉を使うことが大切なことを確かめ、どのような言葉があるかみんなで確認する。
<p>4 観察メモをもとに、一番知らせたいものについての文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てつぼうは、ぼくの身長より高いのとひくいのがあります。 ・つりわは、校しゃの方に進むにつれて高くなっています。 ・ロープウェーのつなのははい色です。 ・校庭のまわりには、さくらの木があります。 ・そう合ゆうぐは、すべり台とろく木とつりばしがつながっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く書き終わった児童には、「自分が全く知らない学校のことだとしたら…」と想像することで、読み手の立場を意識しながら自分の書いた文章を見直すことができるようする。 <p>評価（書くこと）</p> <p>観察メモをもとに、分かりやすい事例を挙げたり、表現を工夫したりしながら、紹介文を書いている。</p> <p>(原稿用紙)</p>
<p>5 ペアで読み合い、意見を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモしたことがちゃんと書けているね。 ・こう書いてあるとわかりやすいね。 ・これ、いいな。まねしてみよう。 ・思い出が書いてあっていいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの相手の文章の中から、よく分かる表現や工夫しているところを見つけることで、自分の表現の参考にできるようする。 ・自力で文を修正するのが難しいペアの相手には、単に修正すべき点を指摘するだけでなく、どのように書き換えればよいのかを具体的に示したり、一緒に考えたりするよう助言する。
<p>6 友達の書いた文章を全体で紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介された児童に、どうしてそのような表現を選んだかを発表させることで、読み手について配慮したことや意

	図について共通理解が図れるようにする。
7 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・本時に自分ができたことやできなかつたこと、友達の書いた文章を読んで気付いたことや新たに分かつたこと、友達の表現で今後取り入れたいことなどを書くことで、学習を通して身に付けたことや現在の力を自分自身で認識できるようにする。・校庭にあるものの様子がよく分かる表現を紹介し合い、そのよさについて話し合うことを通して、よりよい描写の方法について考えることができるようとする。